

2024年2月5日、月1回のリハビリテーション科全体ミーティングで松原副主任と林OTが退院前訪問の報告会を行いました。

今回の患者様は、約2年前に右脳出血（左上下肢麻痺）を発症し、内視鏡下血種除去術を施行され、「仕事（住職）に復帰したい」と言う訴えがありました。

まず、松原副主任と林OTから患者様の基本情報と写真や平面図を用いて住宅環境を説明しました。つぎに、班ごとに分かれ、退院後に家屋内で必要になる福祉用具や住宅改修について考えました。各班からは「ベッドの置き型手すりはL字型が実用的でいいと思う」や「段差の設置が困難な場合は移動できる段差など工夫をしたほうがいい」との意見があり、今後の退院前訪問で活かすためにリハビリテーション科全体で共有しました。

松原副主任からは「患者様の訴えを考慮したうえで住宅内での導線を考え、福祉用具を提案していくことが必要であると改めて感じた」、林OTからは「実際、患者様の家屋訪問に行ったことで、病院ではできない評価や住宅環境を確認できました」との感想がありました。

今回の患者様は自宅復帰ができたものの、仕事（住職）には復帰できておらず、今後の外来リハビリテーションで治療を継続し、患者様の願望が実現できるよう努めてまいります。

（文責 松原 慎）

【勉強会風景】



【住宅平面図】

